

はじめに

館長 岩井秀昭

大阪信愛女学院図書館の活動方針および2006年度の活動報告書が出来上がりました。本書をもってここにご報告いたします。

本学院図書館では児童・生徒・学生が自ら学ぼうとする、いきいきとした学院をつくるためにさまざまな教育活動を支援しています。児童・生徒・学生の学習活動や教職員の研究活動に役立つための、また一人ひとりの楽しみや好奇心を満たすための資料を提供することによって、図書館は利用者である児童・生徒・学生や教職員の「見たい」、「読みたい」、「知りたい」という要求に応えるよう努めています。また、2004年度からは各校との連携を図り、相互理解を深めていくため、教職員の方々の協力を得ながら、各校に図書館教育委員会を設けています。

2006年度の全体の貸出総数は約75,000冊で、一人当たり29冊借りていることとなります。しかしながら、最近の図書館利用の動向を見ると視聴覚資料の利用が多くなってきています。大学の国語の入試問題では新書からの出題が激増、中学校での入学試験では小説からの比重が大きいそうです。また、就職試験等における面接では「愛読書はなにか」と聞かれることがよくあります。こういったものの準備を怠らないためにも図書館は重要な役目を果たします。生涯学習においても、図書館の役割には大きいものがあります。情報収集の場として、図書館を大いに活用していただきたいと思います。

学院図書館は、幼稚園から短期大学までの「総合学院図書館」として、また卒業生・保護者さらには広く一般の方々にも利用して頂いています。17万を超える児童書から専門書までの幅広い豊富な資料を所蔵し、常に利用者の皆さんの来館をお待ちしています。

皆様の忌憚のないご意見・ご感想などをいただき、今後も更なる蔵書の充実、利用の拡大そしてより良い運営を目指してまいります。

I. 大阪信愛女学院図書館活動方針

1. 基本方針

図書館では、学生・生徒・児童が建学の精神にもとづき、女性としての豊かな心を養うと共に、物事を正しく判断して行動し、進んで社会に奉仕できる明朗で健康な人となるように、図書館の機能を通して支援する。

情操面ではもちろんのこと、生涯学習社会、情報化社会に生きる者として、柔軟に対応できるよう、情報の持つ意味、情報の取捨選択、その利用や表現といった情報活用面についても、日常の図書館利用を通して習得することを支援する。

これらの実現のために、次のような活動を推進する。

- 1 様々な興味・関心、また多様な価値観を持つ学生・生徒・児童たちに、自由で楽しい読書の場を保障し、必要に応じた情報の提供を徹底して行う。
- 2 学生・生徒・児童の学習や自主的な活動、教職員の教育活動に対して、積極的に支援する。
- 3 一層充実した情報提供ができるよう、必要な資料の収集に努める。
- 4 これらのことを円滑に行うため、図書館員は常に研鑽に努める。

2. 方針の具体化

1 だれもが利用しやすい図書館づくり

- ・「図書館に行ってみよう」と思われる努力と工夫をする。
- ・初めての人でも気軽に入りやすい雰囲気づくりをする。
- ・日常的に図書館を利用してもらえよう努力する。
- ・館内表示を誰が見ても分かりやすいように工夫する。
- ・障害を持っている人も利用しやすい図書館にする。
- ・図書館に対し良い印象を持ってもらえるように、特にカウンターでの対応に注意する。
- ・広く利用者の要望を図書館運営に反映させるために、アンケート調査を実施する。

2 資料提供を徹底的に行う

- ・利用者が図書館員に気軽に質問できる環境を整える。
- ・利用者の疑問について答える。
- ・利用者が求める資料や情報を迅速・的確に提供する。
- ・図書館員は利用者の様々な疑問に速やかに対応できるよう研鑽に努める。

3 リクエスト制度を理解してもらう

- ・図書館にない本は、買ってもらえることを周知徹底する。
- ・購入が困難なものは、他館から借りられることを周知徹底する。
- ・掲示などを通して広く利用者に知らせる。

4 新鮮で魅力的な資料の充実を心がける

- ・学生・生徒・児童が関心のある資料を積極的に購入する。
- ・授業で利用が見込まれる資料を積極的に購入する。
- ・図書館の収集方針に従い、適正な資料の充実を心がける。

- 5 授業との連携を積極的に行う
 - ・教師に図書館の働きを理解してもらえよう努力する。
 - ・教師に図書館を使った実践例の紹介をする。
 - ・宿題等の課題は事前に把握するよう努め、速やかに資料を提供できるようにする。
 - ・資料の利用方法や情報検索等の指導を通して、情報活用能力の育成に努める。
- 6 図書館を知ってもらうために広報活動を行う
 - ・図書館活動について、学院関係者に周知徹底する。
 - ・ホームページを利用し最新の情報を提供する。
 - ・図書館報、新着案内や展示・掲示を積極的に展開する。

3. 2007年度の活動重点項目

1 図書館の活用

図書館教育委員会の協力のもと、図書館を積極的に活用をしてもらえるように、授業との連携を推進し、図書館を使った授業実践例の紹介など、様々な働きかけを展開する。

2 貸出を伸ばす

魅力ある蔵書づくり、リクエスト制度の周知徹底など様々な図書館活動を通して、貸出の増加に繋がるような活動をする。

3 広報活動

図書館ニュース・新着図書案内などを発行し、図書館活動について広く理解を深める。

4. 資料収集方針（2000年2月23日策定）

<趣旨>

大阪信愛女学院図書館（以下「図書館」という）は、資料提供を通して、児童・生徒及び学生が学ぶ喜びや読む楽しさを体験できるよう援助するとともに、教職員の教育・研究活動を支援するという役割を持っている。その役割を果たしうる図書館であるために、常に利用者（児童、生徒、学生、教職員等）の声に耳を傾け、魅力ある図書館資料（以下「資料」という）の収集に心掛け、以下のような方針で資料を収集する。

<資料の範囲及び種類>

1. 授業の補助になるもの

（授業や課題、学校行事、クラブ活動などで必要なもの。また、利用が見込まれるもの。）

2. 調査研究に必要なもの

（利用者の調査・研究及び教育活動に必要なもの。また、利用が見込まれるもの。）

3. 教養を高めるもの

（人格の形成及び向上に必要な、一般教養及び時事問題を扱っているもの。広い視野と多様な考えに目を開かせるもの。）

4. 利用者が必要とするもの

（利用者の知的好奇心を刺激するもの。利用者の要求が予想されるもの。利用者のリクエストにはできる限り応じる。）

冊子体の資料の他に、デジタル資料、オーディオヴィジュアル資料なども適宜必要に応じて収集する。

Ⅱ. 運営

1. 職員

- ・ 図書館長 岩井秀昭
- ・ 副館長 永野ゆみ子
- ・ 課長 谷嶋正彦
- ・ 係長 濱岡賢二
- ・ 司書 河野香織、金森陽子、守屋美玲、渡辺敦
- ・ 嘱託職員 川島眞治

2. 各校図書館教育委員

- | | 図書館教育委員 | 図書館担当職員 |
|--------|----------------------|---------|
| ・ 短期大学 | 藤本久夫、西野芳治、鈴木万里子、市川隆司 | 濱岡賢二 |
| ・ 高等部 | 今福謙、北地實、笹崎恵美、吉中美湖 | 渡辺敦 |
| ・ 中等部 | 山置裕子、藤井政也 | 谷嶋正彦 |
| ・ 小学校 | 荒井祐子、猪田めぐみ | 金森陽子 |
| ・ 幼稚園 | 馬場理香 | 守屋美玲 |

3. 管理運営

- ・ 図書館の管理・運営総括 岩井秀昭
- ・ 図書館業務総括 永野ゆみ子、谷嶋正彦
- ・ 図書発注・受入・支払 谷嶋正彦、河野香織、金森陽子
- ・ 図書の分類・目録 濱岡賢二、永野ゆみ子
- ・ 図書の装備 渡辺敦、川島眞治、濱岡賢二、永野ゆみ子
- ・ 雑誌受入 守屋美玲、河野香織
- ・ 予約・督促 金森陽子、守屋美玲
- ・ 図書館間相互貸借 濱岡賢二

4. 図書館外業務

- ・ 図書館防災管理責任者 岩井秀昭
- ・ 図書館教育委員会 谷嶋正彦
- ・ 災害対策委員会 渡辺敦
- ・ メディア教育推進委員会 金森陽子
- ・ ホームページ委員会 守屋美玲
- ・ 同和教育委員会 渡辺敦

5. 図書館教育委員会

2004年度より各校に図書館教育委員の先生方を任命していただき、図書館教育委員会が発足した。学院の中の図書館として活動するには、教職員の協力は欠かせない。相互理解を深めていき、今後に向けて少しでも協働して何かができればという考えをもとに5月に図書館教育委員会の会議を行った。

- ・ 5月26日
 - 1) 2005年度活動報告について報告・説明
 - 2) 2006年度活動方針について報告・説明
 - 3) 図書館利用についてのお願い
 - 4) 委員の先生方から図書館に対するご意見・要望を伺う

6. 図書館カレンダー

4月

- ・ 大阪信愛女学院図書館ニュース No. 5 発行 (3日)
- ・ 短大新入生オリエンテーション実施 (4・6日)
- ・ 中等部・高等部の保護者に学院図書館の利用案内を配布 (7日)
- ・ 中等部新入生オリエンテーション実施 (10-11日)
- ・ 高等部新入生オリエンテーション実施 (10-11日)
- ・ 幼稚園の保護者に学院図書館の利用案内を配布 (12日)
- ・ 卒業生・保護者・旧保護者の更新手続き期間の変更 (13日)
- ・ 小学校オリエンテーション実施 (13-14・17-19・21日)
- ・ 各校に平成18年度図書予算を通知 (17日)
- ・ 図書館地下・1階エレベーター前に関係者以外立入禁止の札と鎖をつける (28日)

5月

- ・ 各校に第1回図書館教育委員会開催の案内 (8日)
- ・ 図書館のエレベーター利用開始 (8日)
- ・ 第18回古書展示会 (8-13日)
- ・ 高校生の沖縄修学旅行関係の資料を図書館4階研究室41の前に別置 (17日)
- ・ 中学生の北海道修学旅行関係の資料を図書館2階カウンター横に別置 (19日)
- ・ 第1回図書館教育委員会 (26日)
- ・ 平成17年度図書館活動報告書+活動方針を各校部署主に配布 (26日)
- ・ 読書感想交換ボードを図書館2階カウンター横に設置 (29日)
- ・ 図書館2階インターネットコーナーコンピュータ1台入れ替え (31日)

6月

- ・ 短大にて「選書協力のお願い」「情報検索について」説明 (9日)
- ・ 高等部にて「選書協力のお願い」「情報検索について」説明 (12日)
- ・ 中等部「居残り届」の形式を変更 (15日)
- ・ 館外蔵書点検 (16・20・22日)
- ・ 各校・各部署に開館時間延長試行期間のお知らせ配布 (19日)
- ・ 小学校入試説明会参加者図書館見学 (28日)

7月

- ・ 小学校入試説明会参加者図書館見学 (1日)
- ・ 館内蔵書点検 (1-24日)
- ・ 月～金曜日18:30まで開館時間延長試行期間 (3-24日)
- ・ 各校に図書予算残高を通知 (5日)
- ・ 中等部・高等部オープンキャンパス参加者図書館見学 (16日)

8月

- ・ 館内蔵書点検 (7-24日)

- ・ 図書館前掲示板にライトを設置 (17 日)
- ・ 図書館業務コンピュータ新システム (LIMEDIO) バージョンアップ作業 (22-23 日)
- ・ 中等部・高等部オープンキャンパス参加者図書館見学 (27 日)
- ・ 館外蔵書点検 (28 日)
- ・ 鶴見学舎メディアコーナーの書架整理 (28-29 日)

9 月

- ・ 館外蔵書点検 (1-26 日)
- ・ 小学校入試説明会参加者図書館見学 (2 日)
- ・ 中等部・高等部塾対象入試説明会参加者図書館見学 (5 日)
- ・ 小学生 (4 年) コンピュータ検索の使い方のオリエンテーション (5・7・8・12・14・15 日)
- ・ 小学生 (3 年) 本の並び方・探し方のオリエンテーション (26・27 日)

10 月

- ・ 各校に図書予算残高と図書購入申請受付期限を通知 (3 日)
- ・ 館外蔵書点検 (4 日)
- ・ 小学生 (3 年) 本の並び方・探し方のオリエンテーション (4 日)
- ・ 図書館 2 階インターネットコーナーコンピュータ 1 台入れ替え (10 日)
- ・ 短大学舎内に新着図書案内の箱を設置 (17・24 日)
- ・ 中等部・高等部保護者対象入試説明会・オープンキャンパス参加者図書館見学 (21 日)

11 月

- ・ 各校に学術雑誌購読についての調査実施 (2 日)
- ・ 中等部・高等部保護者対象入試説明会・オープンキャンパス参加者図書館見学 (18 日)

12 月

- ・ 中学生に図書館利用調査アンケート実施 (6 日)
- ・ 平成 19 年度予算申請書提出 (14 日)

1 月

- ・ 短大生に図書館利用調査アンケート実施 (18 日)
- ・ 平成 18 年度除籍リスト提出 (23 日)
- ・ 高校生 (1 年) 図書館利用調査アンケート実施 (24 日)
- ・ 高校生 (2 年) 図書館利用調査アンケート実施 (30 日)

2 月

- ・ 高校生 (3 年) 図書館利用調査アンケート実施 (13 日)
- ・ 平成 18 年度除籍リスト提出 (26 日)

3 月

- ・ 図書館業務コンピュータ新システム (LIMEDIO) リビジョンアップ作業 (14 日)
- ・ 平成 18 年度図書館資料決算報告提出 (16 日)

7. 出張、研修

5 月

- ・ 私立短期大学図書館協議会近畿地区協議会 2006 年度総会・第 1 回研修会 (9 日 相愛女子短期大学-濱岡)

8 月

- ・ 学校図書館問題研究会 第 22 回全国大会 (3-5 日 長野-谷嶋・金森)

9月

- ・平成18年度 私立短期大学図書館協議会全国研修会（7-8日 東京-濱岡）
- ・大阪府高等学校図書館研究会 第1回 研究例会（20日 大阪府立大手前高等学校-渡辺）
- ・日本図書館研究会 学校図書館研究グループ さいたま市訪問調査（28-29日 埼玉-谷嶋）

11月

- ・立命館小学校見学（13日 京都-谷嶋）

12月

- ・私立短期大学図書館協議会近畿地区協議会 第3回研修会（5日 京都文教短期大学-永野）

8. 土曜開館

原則として中・高の授業に対応し、第2土曜日を除き開館している。2006年度は31回土曜日開館を行った。開館時間は午前8時10分から午後3時までとし、放課後にビデオやDVDを鑑賞できる時間を設定したが、閉館時までの利用はほとんど無く、有効な利用がなされていないのが現状である。今後のさらなる広報が必要と思われる。

9. 広報活動

- ・主に学生・生徒を対象とした新着図書案内『あたらしい本』を不定期ではあるが23回発行した。また、図書館前の掲示板には新着図書案内や各種ポスターを掲示し、随時入れ替えを行っている。
- ・インターネット上の図書館のサイトには、お知らせや開館カレンダーなどを随時アップロードしている。
- ・教職員を対象とした図書館ニュースを4月に発行した。図書館活動について理解していただけるように、今後は年2回程度発行予定である。
- ・幼稚園では『幼稚園としょかんつうしん』、小学校では『図書館だより(小学校版)』、中等部では『らい★ぶらり(中等部版)』『図書館ニュース(中等部版)』、高等部では『らい★ぶらり(高等部版)』『図書館ニュース(高等部版)』を発行した。

10. 学外者利用

2003年度より学外者利用規定を施行し、これまでの保護者・卒業生に加えて学外者にも図書館開放を行っている。2006年度は、資料閲覧のための来館が4件あった。

Ⅲ. 全体統計資料

1. 蔵書冊数(2007年3月31日現在)

短期大学	高等部	中等部	小学校	幼稚園	合 計
93,674	47,094	12,353	14,951	5,191	173,263

* 蔵書数には図書・ビデオ・DVD・LD・CD・カセットを含む。

2. 年間受入資料数

		短期大学	高等部	中等部	小学校	幼稚園	合 計
購入	冊数	3,278	1,509	471	749	262	6,269
	金額	7,199,965	2,199,948	799,893	999,976	299,969	11,499,751
寄贈	冊数	301	165	14	105	68	653
	金額	432,624	149,303	16,442	90,173	77,816	766,358
合計	冊数	3,579	1,674	485	854	330	6,922
	金額	7,632,589	2,349,251	816,335	1,090,149	377,785	12,266,109

* 詳細は各校の年間受入資料数を参照のこと。

3. 除籍冊数

短期大学	高等部	中等部	小学校	幼稚園	合 計
727	377	272	386	18	1,780

2006年度も古本・不明本・破損本の除籍を行った。中・高・短大の古本は分野を問わず、地下電動書架の未登録本を整理し除籍を行った。

除籍した図書は古書展示として利用者に提供している。

4. 購読雑誌・新聞数

	日本語	外国語	合計
雑 誌	211種	4種	215種
新 聞	23種	1種	24種

5. 開館日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(日)
18	23	25	24	11	23	24	23	18	19	22	14	244

6. 文献複写依頼件数

	件数	依頼者数
発注	36	3
受注	14	

7. 図書館の館外貸借冊数

	国公立大学	私立大学	その他	合計
貸出	4	5	2	11
借用	0	5	22	27

その他とは、公共図書館・各種研究所のことを言う。

8. 貸出統計(5年間の推移)

貸出冊数及び1人当たりの貸出数

		2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
対象人数(人)	小学校	593	565	547	542	544
	中等部	429	413	358	328	294
	高等部	1,082	1,004	897	801	724
	短大	407	387	394	386	377
	教職員	288	280	267	267	271
	卒業生・保護者	533	450	474	467	336
	合計	3,332	3,099	2,937	2,791	2,546
貸出冊数(冊)	小学校	36,304	35,970	36,134	35,557	36,443
	中等部	10,066	8,855	5,373	6,255	7,324
	高等部	21,919	23,728	19,620	13,606	12,277
	短大	4,114	4,143	5,870	5,045	4,818
	教職員	4,465	5,294	5,515	6,409	7,703
	卒業生・保護者	3,726	3,598	4,667	4,651	6,249
	合計	80,594	81,588	77,179	71,523	74,814
1人当たり 貸出冊数(冊) (小数点第一位 四捨五入)	小学校	61	64	66	66	67
	中等部	23	21	15	19	25
	高等部	20	24	22	17	17
	短大	10	11	15	13	13
	教職員	16	19	21	24	28
	卒業生・保護者	7	8	10	10	19
	平均	24	26	26	26	29

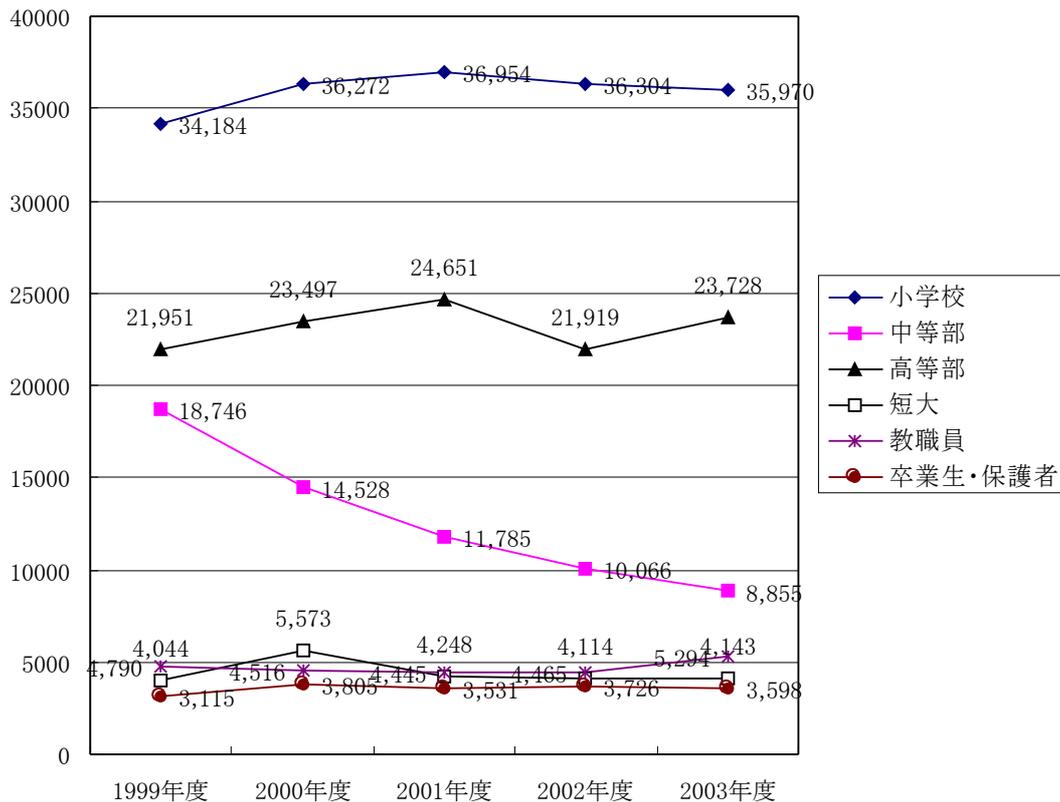
* 2002年4月より開館時間延長の時間変更(水8:10~18:15)

* 2005年4月より開館時間の変更(平日8:10~17:30、土8:10~15:00)

* 2006年7月3日~24日まで開館時間延長試行期間(平日8:10~18:30)

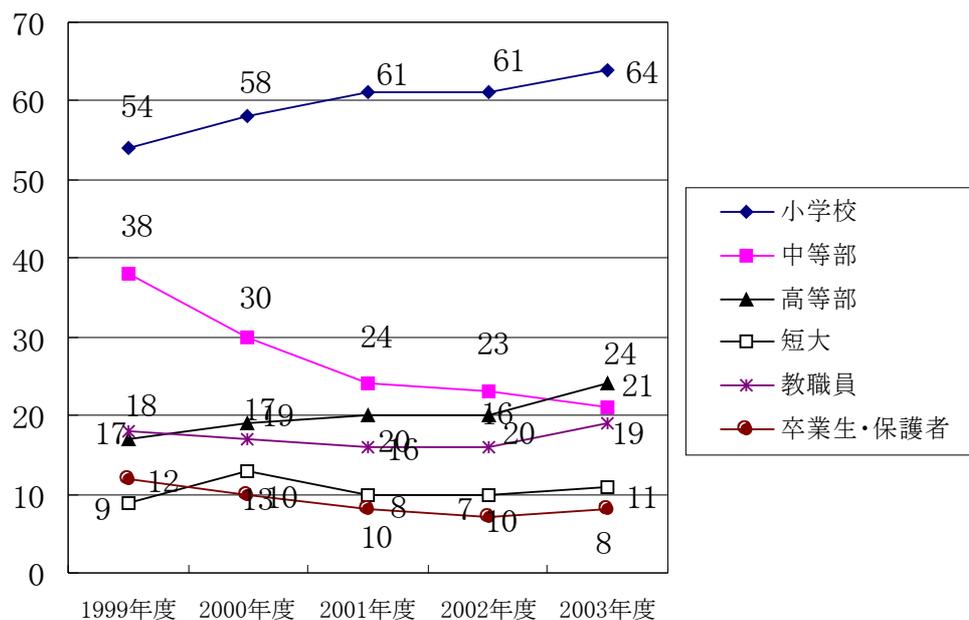
学校別貸出冊数推移

(単位:冊)



一人当たり貸出冊数

(単位:冊)



分類別貸出冊数

	総記 (000)	哲学(100)	歴史(200)	社会科学(300)	自然科学(400)
小学校	55	516	1,443	782	2,152
中等部	36	125	140	151	158
高等部	55	285	486	380	527
短大	11	180	61	1,769	222
教職員	115	479	541	1,249	556
卒業生・保護者	13	174	184	282	318
合計	285	1,759	2,855	4,613	3,933

	技術(500)	産業(600)	芸術(700)	言語(800)	文学(900)
小学校	1,345	977	1,406	442	27,325
中等部	156	63	2,150	204	4,116
高等部	686	78	4,492	527	4,690
短大	168	18	1,222	70	1,084
教職員	338	106	2,149	240	1,793
卒業生・保護者	281	53	1,153	152	3,570
合計	2,974	1,295	12,572	1,635	42,578

資料別貸出数

		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度	
中等部	図書	8,017	80%	6,542	74%	4,108	76%	5,002	80%	5,961	81%
	視聴覚	2,049	20%	2,313	26%	1,265	24%	1,253	20%	1,363	19%
高等部	図書	15,535	70%	16,462	70%	14,166	72%	10,623	78%	9,301	76%
	視聴覚	6,384	30%	7,266	30%	5,454	28%	2,983	22%	2,976	24%
短大	図書	3,372	82%	3,302	80%	4,932	84%	4,194	83%	4,095	85%
	視聴覚	742	18%	841	20%	938	16%	851	17%	723	15%
教職員	図書	3,564	80%	4,024	76%	4,470	81%	4,921	77%	5,874	76%
	視聴覚	901	20%	1,270	24%	1,045	19%	1,488	23%	1,829	24%
卒業生・保護者	図書	3,233	87%	3,145	87%	4,282	92%	4,362	94%	5,605	90%
	視聴覚	493	13%	453	13%	385	8%	289	6%	644	10%

* 小学校は図書のみ利用のため対象外とする。

* 視聴覚資料とはCD・カセット・ビデオ・LD・DVD等、印刷メディア以外の資料を指す。

* 右欄のパーセント(%)は全貸出数に占める割合を示す。小数点第一位四捨五入。

9. 資料別予約件数

		2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
中等部	図書	484	500	272	269	354
	CD	159	224	97	44	101
高等部	図書	1,180	1,263	1,163	623	480
	CD	352	578	232	94	131
短大	図書	46	16	41	22	49
	CD	11	36	7	7	7
教職員	図書	185	238	384	408	477
	CD	2	9	10	10	14
卒業生・保護者	図書	144	47	59	67	63
	CD	1	9	0	2	8
合計	図書	2,039	2,064	1,919	1,389	1,423
	CD	525	856	346	157	261
	総計	2,564	2,920	2,265	1,546	1,684

*教職員のみ、CDにDVDなどの視聴覚資料全てを含む。

10. 購入希望受付件数

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
中等部	170	250	57	49	167
高等部	452	579	494	520	314
短大	30	9	20	6	49
合計	652	838	571	575	530

* 教職員は購入申請のため除く。

* 卒業生・保護者の購入希望は受け付けていないため除く。

* 絶版などで入手できなかったものも含む。

11. 館内施設利用件数

研究室利用件数（過去5年間）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
学習	460	673	521	706	618
中等部	54	88	56	37	139
高等部	388	525	436	609	427
短大	12	34	18	57	47
初等教育	11	27	17	47	46
人間環境	1	7	1	10	1
卒業生・保護者	6	26	11	3	5
ビデオ	333	315	190	107	68
中等部	107	97	50	27	23
高等部	169	156	126	68	34
短大	50	55	6	11	10
初等教育	40	45	3	11	10
人間環境	10	10	3	0	0
卒業生・保護者	7	7	8	1	1
LD	9	4	8	0	0
中等部	0	0	4	0	0
高等部	5	2	3	0	0
短大	4	2	1	0	0
初等教育	4	0	0	0	0
人間環境	0	2	1	0	0
卒業生・保護者	0	0	0	0	0
DVD	42	358	328	464	647
中等部	4	125	83	96	233
高等部	31	208	211	312	286
短大	6	22	29	46	122
初等教育	6	14	26	35	97
人間環境	0	8	3	11	25
卒業生・保護者	0	3	5	10	6
全利用回数	844	1,350	1,047	1,277	1,333

*グループでの利用は1回とする。

CD機器利用件数(過去5年間)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
中等部	7	64	22	8	18
高等部	21	100	71	6	11
短大	7	23	3	17	6
初等教育	4	19	3	17	5
人間環境	3	4	0	0	1
卒業生・保護者	5	3	0	0	1
合 計	40	190	96	31	36

カセット機器利用件数(過去5年間)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
中等部	1	2	0	0	1
高等部	0	1	0	0	0
短大	1	0	0	0	0
初等教育	1	0	0	0	0
人間環境	0	0	0	0	0
卒業生・保護者	0	0	0	0	0
合 計	2	3	0	0	1

インターネット利用件数(過去5年間)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
中等部	-	-	-	186	822
高等部	-	-	-	171	180
短大	-	-	-	2	3
初等教育	-	-	-	2	1
人間環境	-	-	-	0	2
卒業生・保護者	-	-	-	0	2
合 計	-	-	-	359	1,007

* インターネット利用のカウン트는、昼休みと放課後のみとしている。

* 2005年1月よりインターネットを申し込み制にしたため、2002～2004年度のデータは空欄とする。

研究室利用、CD・カセット機器利用ともに2005年度に比べ増加している。中学生の学習、中・短大生のDVD鑑賞の利用が増えたためだと考えられる。インターネット利用に関しては、中・高校生の利用が多い。

LD・カセットテープの利用は殆どなく、視聴覚の出版形態がLD・ビデオからDVD、カセットテープからCDへと時代の流れとともに変化してきているためと思われる。

資料の貸出数は2005年度に比べ中学生、教職員、卒業生・保護者で増加しており、図書館利用が増えてきたのは喜ばしいことである。今後も、図書館活動方針にも掲げているように、だれもが利用しやすい図書館づくり、新鮮で魅力的な資料の充実などを心がけて活動していく必要がある。

IV. 短期大学活動報告・統計

1. 活動報告

1) 新入生オリエンテーション

1 回生オリエンテーションガイダンス期間中に、初等教育学科は 27 名 5 グループ、人間環境学科は 11 名 5 グループに分けて、90 分間の図書館利用ガイダンス（利用説明、館内ツアーなど）を実施した。また、人間環境学科のみ鶴見学舎において、10 分間のメディアコーナーの利用案内を実施した。

2) 購入申請等文書でのお知らせ

年度始めに全教職員に対して文書で下記のお知らせを行った。

- ・購入申請方法について
- ・文献複写・現物貸借方法について
- ・情報検索（NACSIS-IR・日経テレコン）利用について

3) 研究室蔵書点検

両学科とも 9 月に各研究室の蔵書点検を行った。

4) 鶴見学舎メディアコーナー

配架図書冊数は 6,153 冊である。8 月に行った配架調整の結果多少書架に余裕ができたが、限られたスペースの中で有効な資料を選定していく必要がある。

過去累積	4,769
2003年度	407
2004年度	234
2005年度	359
2006年度	384
合計	6,153

2. 図書予算決算報告

寄贈図書を含まない 2006 年度の受入資料数は、3,278 冊 7,199,965 円で、学生一人当たりになると約 9.13 冊 20,055 円になる。

図書予算は、2005 年度と同額であった。しかし、購入冊数は 494 冊増となっている。研究室図書購入費は一律 41,000 円に据え置かれている。

図書館での選書冊数が 2006 年度とほぼ同等の全体の約 7 割を占めている。

		*** 決算報告 ***			
科目名	執行額				
	冊数	金額			
初等教育	233	842,697			
人間環境	341	844,057			
参考図書	174	1,255,122			
図書館	2,327	3,811,322			
図書館同和	7	21,452			
小計	3,082	6,774,650			
入試部					
教務課	2	6,142	長尾研		
学生課			中嶋研		
同和教育	1	4,200	西野研		
情報教育	19	35,917	馬場研		
卒業研究	19	38,275	平田研		
教育研究所			藤本研	5	9,355
総合研究所	4	11,573	宮崎研	2	3,875
			吉田研		
アラン研			吉中研		
飯田研	23	30,191			
今道研			足高研		
岩井研	18	35,770	足立研	18	34,215
奥田研	11	17,479	市川研	17	40,111
木村研			上田研	17	42,037
高坂研			佐久研	11	37,892
佐嶋研	1	2,160	鈴木研	2	9,981
芝研			高井研	13	31,278
種谷研			田中研	13	34,864
			合計	3,278	7,199,965

<学生一人当たり購入冊数/9.13冊 金額/20,055円>

3. 蔵書冊数

93,674 冊（2007 年 3 月 31 日現在）

4. 年間受入資料数

分類番号	一般図書	参考図書	紙芝居	楽譜	マンガ	推薦図書	カセット	C D	ビデオ	DVD	CD-ROM	合計
総記	129	15	0	0	0	0	0	0	3	0	0	147
000	347,341	102,519	0	0	0	0	0	0	7,938	0	0	457,798
哲学	333	13	0	0	0	0	0	2	0	6	0	354
100	635,157	115,928	0	0	0	0	0	3,794	0	24,621	0	779,500
歴史	258	22	0	0	2	0	0	0	0	0	1	283
200	405,120	299,571	0	0	1,918	0	0	0	0	0	3,000	709,609
社会科学	1,112	60	0	0	6	20	0	2	0	5	0	1,205
300	1,946,326	362,757	0	0	7,019	45,493	0	3,000	0	95,500	0	2,460,095
自然科学	359	41	0	0	1	0	0	0	1	4	2	408
400	684,376	154,340	0	0	1,040	0	0	0	1,000	56,700	2,000	899,456
技術	203	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	208
500	299,237	16,632	0	0	0	0	0	0	0	0	0	315,869
産業	71	9	0	0	0	0	0	0	0	4	0	84
600	120,161	31,846	0	0	0	0	0	0	0	43,200	0	195,207
芸術	256	13	0	73	4	2	0	93	0	47	0	488
700	431,993	98,654	0	120,399	2,238	3,402	0	149,041	0	229,178	0	1,034,905
言語	69	38	0	0	0	0	0	0	0	0	2	109
800	106,856	156,822	0	0	0	0	0	0	0	0	6,426	270,104
文学	262	6	4	0	0	21	0	0	0	0	0	293
900	432,163	49,708	6,521	0	0	21,654	0	0	0	0	0	510,046
合計	3,052	222	4	73	13	43	0	97	4	66	5	3,579
	5,408,730	1,388,777	6,521	120,399	12,215	70,549	0	155,835	8,938	449,199	11,426	7,632,589

(上段：冊数、下段：金額)寄贈図書を含む

和洋別受入数

	購 入		寄 贈		そ の 他		合 計	
	冊数	金 額	冊数	金 額	冊数	金 額	冊数	金 額
和書	3,230	7,061,009	73	135,774	208	276,850	3,511	7,473,633
洋書	48	138,956	13	11,700	7	8,300	68	158,956
合計	3,278	7,199,965	86	147,474	215	285,150	3,579	7,632,589

年間受入資料数は、3,579冊 7,632,589円で一冊平均2,132円である。

例年、一冊平均単価は2,400円程度であったが、2006年度は270円程度安価となっている。一冊単価が安くなった分、購入冊数が2005年度より494冊、受入冊数で437冊増加している。洋書の購入冊数が増加しているが、楽譜が半数を占めている。分野別には、例年と大差のない構成となっている。

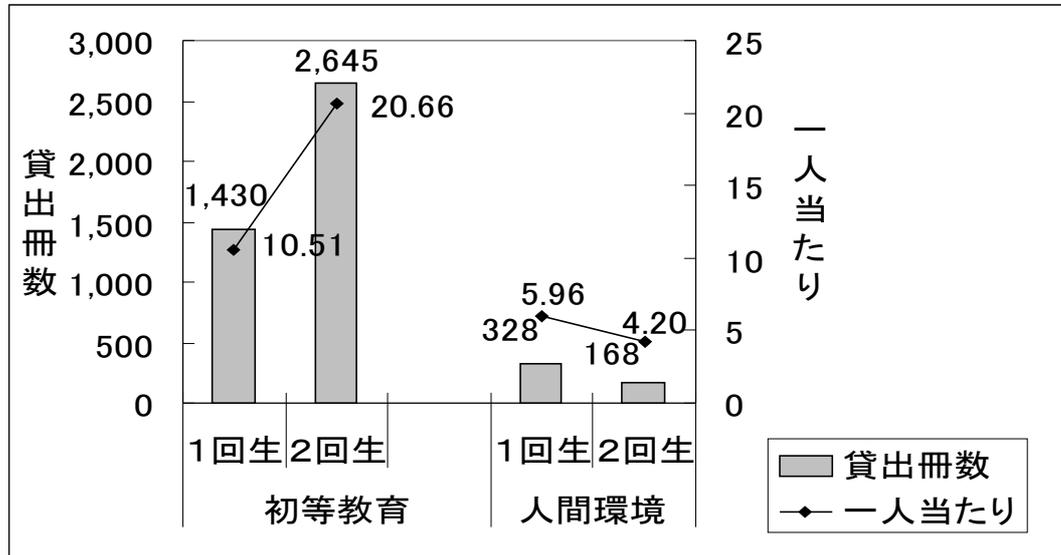
5. 貸出冊数

貸出冊数及び一人当たりの貸出数 (過去5年間)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
対象人数 (人)	407	387	394	386	377
貸出冊数 (冊)	4,114	4,143	5,870	5,045	4,818
1人当たり貸出冊数 (冊)	10.11	10.71	14.88	13.07	12.78
初教1人当たり	11.15	11.91	17.47	13.50	15.46
人環1人当たり	8.14	8.22	7.96	7.36	5.22

資料別貸出数（過去5年間）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
図書	3,372	3,302	4,932	4,194	4,095
A V資料	742	841	938	851	723
合計	4,114	4,143	5,870	5,045	4,818



学科・学年別貸出数

初等教育学科学年別統計

学年	0分類	1分類	2分類	3分類	4分類	5分類	6分類	7分類	CD類	8分類	9分類	絵本	分類無
1回生	5	107	12	566	56	43	4	414	277	28	316	111	1
2回生	4	38	39	1125	131	108	9	599	276	40	632	448	12

*CD類は7分類の冊数に含まれる。

*絵本は9分類の冊数に含まれる。

人間環境学科学年別統計

学年	0分類	1分類	2分類	3分類	4分類	5分類	6分類	7分類	CD類	8分類	9分類	分類無
1回生	2	12	1	42	27	11	5	173	144	1	54	0
2回生	0	19	9	40	8	6	0	24	20	1	63	0

鶴見学舎メディアコーナーの年間貸出冊数

初教1	初教2	人環1	人環2	合計
2	3	67	52	124

まず、初等教育学科は、3分類(社会科学)・7分類(芸術)の利用が多く、教育実習・保育士コース等の貸出、2回生の絵本の利用率が高いことが分かる。

人間環境学科では、7分類(芸術)が最も多いがその80%以上がCD類の貸出である。続いて9分類(小説類)・3分類(社会)の順となっている。学科と関係した4分類(自然科学)・5分類(技術)はそれほど多いとはいえない。これらのことから、趣味での利用が多く授業と関係した貸出が少ないように見受けられる。

また、鶴見メディアコーナーでの貸出冊数を見ると、初等教育学科の学生は授業が鶴見学舎であるにもかかわらずほとんど利用はなく、人間環境学科の学生でも貸出冊数全体の24%程度しか借りていないことがわかる。

6. まとめ

例年の特徴として、初等教育学科の1回生と2回生の貸出冊数には大きな開きがあるものの実習に必要な資料を中心に依然高い水準の貸出冊数である。人間環境学科での貸出冊数は年々減少しており5年前と比べて一人当たり3冊程度減少している。レポート提出の機会が減少しているのが原因と思える。

また、鶴見学舎メディアコーナーもできるだけ学科に関連した資料を積極的に選書してはいるが、統計を見る限りではあまり利用されていない状況である。配架スペースが限られた中でいかに学生に有効な資料を構成・提供していくかが今後の課題である。しかしながら、学科内容と関連した貸出がほぼ見受けられない状況では貸出冊数を増加させることは非常に難しい。

今後も先生方の協力のもと、これらの課題を解決していく方法を探っていきたい。

V. 高等部活動報告・統計

1. 活動報告

1) オリエンテーション

オリエンテーション期間中に外部生を対象に50分を用い、1グループ30名程度に1人の館員がつき、館内ツアーと図書館ガイドブックによる利用案内を行った。

2) 教科との連携

- ・2年生の総合学習において、修学旅行地の沖縄に関する資料を収集・別置き、調べ学習に供した。また、雰囲気作りのためにポスターを掲示した。
- ・2年生の保健体育科の授業において「汚染」に関する調べ学習が行われた。関連資料のリストを作成し生徒に配布した。
- ・1年生の国語、3年生の家庭科の授業において調べ学習が行われた。

3) 図書委員会活動

高校図書委員会は各クラスより2名の委員が選出され、計42名で組織されている。指導の先生のもと、『ライブラリーニュース』の発行と選書の活動を行っている。

①『ライブラリーニュース』の発行

2006年度は2回、1・2学期末に発行した。内容は図書委員が推薦する本の紹介である。担当の図書委員が原稿を書き、編集し、全教職員・生徒に配布した。

②選書

担当クラスの図書委員がクラス全員に購入希望図書を調査し、所蔵の重複調査・出版情報の検索を行い購入申請を行っている。

購入した図書は購入図書リストを作成し各クラスに掲示した。

4) 広報活動

- ・毎月発行している新着図書案内やお知らせを盛り込んだ『らい★ぶらり』を10月より全生徒に配布した。その際放送(2回)でも配布した『らい★ぶらり』の内容を紹介し、図書館利用や貸出の促進を図った。また、1回の発行ではあったが『図書館ニュース(高等部版)』を全教職員に配布した。
- ・6月中旬に教職員協議会において、「選書協力について」のお願いと「情報検索について」の説明を行った。

2. 図書予算決算報告

科目名	冊数	金額
高校図書	485	870,319
図書館	622	749,602
同和教育	0	0
リクエスト	271	264,281
視聴覚リクエスト	131	315,746
合計	1,509	2,199,948

一人当たりの購入数/2.08冊 金額/3,039円

購入資料数(寄贈資料を除く)は1,509冊、2,199,948円である。一人当たりの購入数は2.08冊、3,039円であり、2005年度より若干増加している。

2006年度の先生方による購入申請(高校図書)冊数は32%で2005年度より7%増加し喜ばしいことである。これからも選書環境を整え先生方に積極的な購入申請を働きかけていきたい。

3. 蔵書冊数

47,094冊(2007年3月31日現在)

4. 年間受入資料数

分類番号	一般図書	参考図書	絵本	紙芝居	楽譜	マンガ	カセット	CD	ビデオ	DVD	CD-ROM	合計
総記	20	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
000	30,882	12,150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43,032
哲学	118	1	0	0	0	3	0	15	0	1	0	138
100	135,139	897	0	0	0	3,969	0	28,976	0	4,190	0	173,171
歴史	122	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	128
200	193,465	18,555	0	0	0	0	0	2,646	0	0	0	214,666
社会科学	132	3	0	0	0	0	0	0	0	4	1	140
300	156,025	32,292	0	0	0	0	0	0	0	30,599	1,000	219,916
自然科学	80	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	84
400	108,530	1,796	0	0	0	0	0	0	0	53,865	0	164,191
技術	80	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	83
500	101,122	0	0	0	0	0	0	0	0	6,747	0	107,869
産業	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
600	16,811	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,811
芸術	100	0	0	0	9	45	0	156	1	8	0	319
700	156,405	0	0	0	16,821	25,955	0	373,909	2,363	23,613	0	599,066
言語	69	5	0	0	0	0	0	11	0	3	0	88
800	96,031	18,020	0	0	0	0	0	2,890	0	9,921	0	126,862
文学	633	7	15	0	0	1	0	0	0	0	0	656
900	651,128	14,251	17,645	0	0	643	0	0	0	0	0	683,667
合計	1,369	25	15	0	9	49	0	183	1	22	1	1,674
	1,645,538	97,961	17,645	0	16,821	30,567	0	408,421	2,363	128,935	1,000	2,349,251

(上段：冊数、下段：金額)寄贈図書を含む)

年間受入資料数は、1,674冊で1冊あたり平均1,403円である。

受入資料の約82%が一般図書である。その内訳を分類別で見ると、文学が46%で約半分を占め、哲学・歴史・社会科学が約10%、そして芸術が7%で続いている。文学には研究書・文庫本・小説などが含まれる。哲学はキリスト教関係の図書が多い。AV資料は約8%で、ほとんどが音

楽関係のCDであり、購入希望によるものが多い。映像資料はDVDの購入が増え、学習用DVDに加え、最近の映画のDVDを揃え利用に供した。

文学の分野が全体の半分近くを占めている。蔵書構成に留意し購入を図っていきたい。

5. 貸出冊数

貸出冊数及び一人当たりの貸出数（過去5年間）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
対象人数（人）	1,082	1,004	897	801	724
貸出冊数（冊）	21,219	23,728	19,620	13,606	12,277
1人当たり貸出冊数（冊）	19.61	23.63	21.87	16.99	16.96

分類別貸出冊数

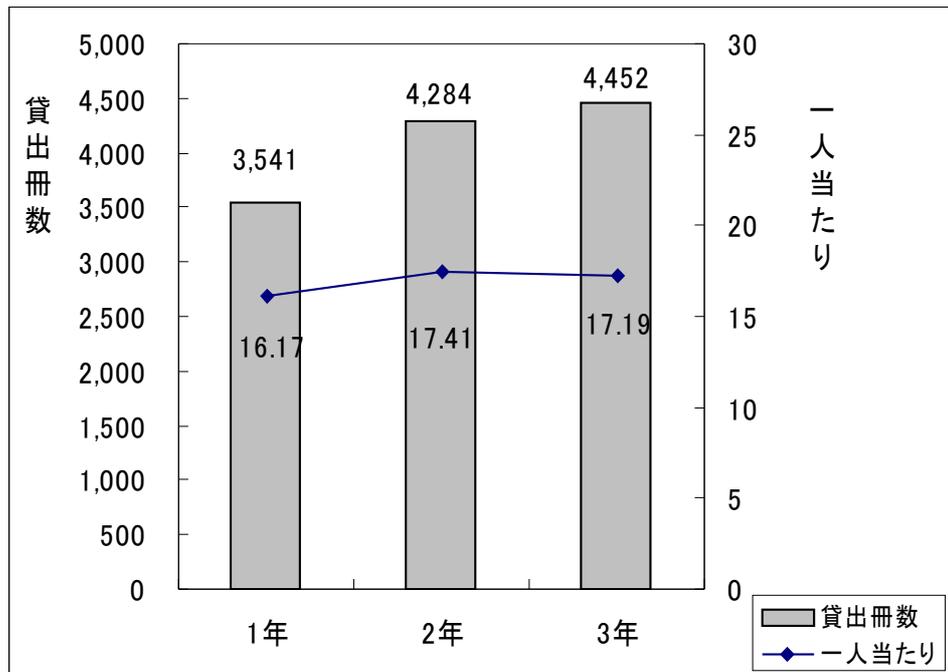
総記(000)	哲学(100)	歴史(200)	社会科学(300)	自然科学(400)
55	285	486	380	527

技術(500)	産業(600)	芸術(700)	言語(800)	文学(900)
686	78	4,492	527	4,690

資料別貸出数（過去5年間）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
図書	15,535	16,462	14,166	10,623	9,301
AV資料	6,384	7,266	5,454	2,983	2,976
合計	21,919	23,728	19,620	13,606	12,277

学年別貸出数



一人当たりの貸出冊数は、数年平均 20 冊程度で推移していたが、2005 年度以降減少し、2006 年度は平均 17 冊となっている。中でも 1 年生の貸出数が少なくなっている。

貸出数を資料別で見ると、図書が約 76%、A V 資料が約 24% である。2005 年度より図書が 2% 減少し、その分 A V 資料が増加している。分類別では、文学が 39%、芸術が 37% であり、両分野で 76% と大部分を占めている。貸出内容を見ると文学においては小説・文庫本・学習参考書が多い。芸術においては音楽関係の CD が圧倒的で、購入希望によるものが多い。

生徒の求める資料の提供や広報活動に努め、貸出を伸ばしていきたい。

6. まとめ

生徒の貸出は自由読書によるところが大きく、授業関連資料の貸出は少ない。図書館資料を活用した調べ学習や課題の提出により、学習資料の貸出が増加することを願うものである。

先生方からの購入申請が増加傾向にあり、選書の方野も広がったことは喜ばしいことである。しかし、まだ一部の先生に留まっている。授業関連資料の充実のためには先生方による選書が何よりも必要である。図書館にどのような資料が所蔵されているかを把握していただき、不足している資料や生徒に薦める資料の選書をお願いしたい。図書館においても先生方とのコミュニケーションを図り、授業内容を把握し、資料の充実に努めたい。

図書館が「自ら学ぶ力」の育成の場や生涯学習の場として機能するよう、先生方との連携のもと、図書館活動に取り組んでいきたい。

VI. 中等部活動報告・統計

1. 活動報告

1) オリエンテーション

4月10・11日に1年生全員を対象に1クラス50分使用し、8～10人を1グループに分け、グループ単位で1名の図書館員が図書館ガイドブックに基づき利用案内と館内ツアーを行った。

2) 教科との連携

図書館活動方針の活動重点項目に、「図書館の活用」として授業との連携の推進、図書館を使った授業実践例の紹介を掲げていた。ほとんど活用されることはなかったが、1年C組・D組の理科の授業で「大昔の生き物・進化に関する資料の探し方」のパスファインダー（資料検索の手引き）を作成し配布した。

2007年度も引き続き先生方一人一人への働きかけを試みたい。

3) 広報活動

中学生の利用が増えることを願って広報誌『らい★ぶらり』を毎月発行している。9月までは各教室に掲示し、10月からは生徒全員に配布した。配布すると直ちに「この本どこにある？」などの反響が必ずあり、利用の増加が目に見えて明らかになった。

また『図書館ニュース（中等部版）』を全教員に学期に1回配布し図書館活動を紹介した。

4) 資料の別置

「修学旅行」関連資料（5-6月）、「英語原書の多読」推薦図書（7月）を2階カウンター横に別置した。

5) その他

中学生は総退出時間が設定されており、それ以後に居残りを希望する生徒は「図書館居残り届」をカウンターに提出することで放課後の利用が認められている。6月15日以降は「居残り届」をノート形式に変更し、教師の承認印を廃止した。

この緩和により2006年度の居残り届提出者数は延べ1,562名と2005年度の692名より大幅に増加している。このことから中学生の図書館利用が増加したことが分かる。

2. 図書予算決算報告

科目名	冊数	金額
中学校図書	26	135,368
図書館	352	552,351
同和教育	0	0
リクエスト	93	112,174
合計	471	799,893

一人当たり購入数約1.6/冊 金額約2,721/円

図書館での選書が全体購入冊数の約75%を占めており、2005年度の約80%より僅かながら減少している。

先生方からの購入申請（中学校図書）図書冊数は、2005年度の約17%から約5.5%と減少している。購入申請金額はあまり変わっていないので一冊の平均単価が高くなったことになる。先生方の授業研究用資料や生徒の教養を高める資料の図書選定に、協力していただくよう更に働きかけをしていかなければならない。

生徒からの購入希望冊数（リクエスト）は約20%と大幅に増えており、生徒の図書館利用の増加に比例して購入希望も多くなっていると考えられる。

3. 蔵書冊数

12,353冊（2007年3月31日現在）

4. 年間受入資料数

分類番号	一般図書	参考図書	絵本	紙芝居	楽譜	マンガ	カセット	CD	ビデオ	DVD	CD-ROM	合計
総記 000	8 9,128	1 1,350	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	9 10,478
哲学 100	13 18,430	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	13 18,430
歴史 200	29 34,747	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	29 34,747
社会科学 300	66 137,442	2 3,546	0 0	0 0	0 0	1 718	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	69 141,706
自然科学 400	52 94,477	1 3,780	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 53,865	0 0	56 152,122
技術 500	32 51,206	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	32 51,206
産業 600	6 7,640	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	6 7,640
芸術 700	35 65,746	0 0	0 0	0 0	3 9,260	3 2,686	0 0	2 5,292	1 4,500	8 54,270	0 0	52 141,754
言語 800	21 27,622	2 5,292	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	15 21,264	0 0	3 9,921	0 0	41 64,099
文学 900	166 177,237	0 0	12 16,916	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	178 194,153
合計	428 623,675	6 13,968	12 16,916	0 0	3 9,260	4 3,404	0 0	17 26,556	1 4,500	14 118,056	0 0	485 816,335

（上段：冊数、下段：金額）寄贈図書を含む

年間受入資料数は、485冊816,335円一冊平均1,683円で、受入冊数が減少し一冊の平均単価が増加している。

毎年9分類(文学)に関する受入が最も多くなっているため、2006年度も引き続き全体構成を意識して選書しようと努めた結果、全体の約37%と安定してきている。今後も選書に際して全体のバランスを意識して購入しなければならないと考えている。

内容的には生徒の読み物と調べ学習用図書が中心になっている。

5. 貸出冊数

貸出冊数及び一人当たりの貸出数（過去5年間）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
対象人数（人）	429	413	358	328	294
貸出冊数（冊）	10,066	8,855	5,373	6,255	7,324
1人当たり貸出冊数（冊）	23.46	21.44	15.01	19.07	24.91

分類別貸出冊数

総記（000）	哲学(100)	歴史(200)	社会科学(300)	自然科学(400)
36	125	140	151	158

技術(500)	産業(600)	芸術(700)	言語(800)	文学(900)
156	63	2,150	204	4,116

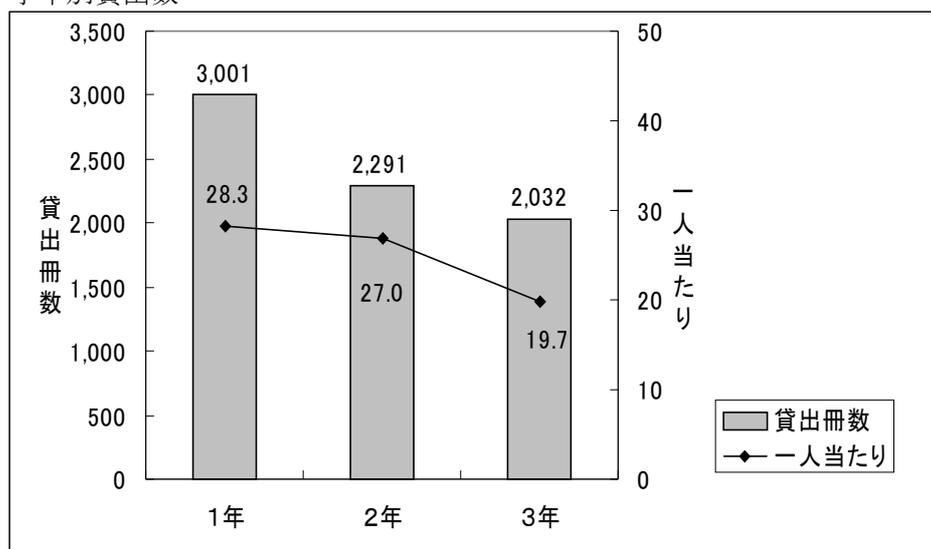
資料別貸出数（過去5年間）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
図書	8,017	6,542	4,108	5,002	5,961
A/V資料	2,049	2,313	1,265	1,253	1,363
合計	10,066	8,855	5,373	6,255	7,324

クラス別貸出冊数

	A組	B組	C組	D組	合計
1年	578	146	558	1,719	3,001
2年	359		1,011	921	2,291
3年	201	229	736	866	2,032

学年別貸出数



2006年度卒業生の3年間の利用状況

3年間で100冊以上借りた人	16人（103人中）
3年間で一番多く借りた人	490冊
3年間で1冊も借りなかった人	3人（103人中）

1年間の1人当たりの貸出数は2004年度までは毎年10%以上減少してきたが、2005年度から増加している。過去の最高値1999年度の37.71冊に更に近づきたい。

分類別貸出冊数、資料別貸出数を見ると、2005年度から2006年度への増加分1,069冊のほとんどが図書で、74%が9分類（文学）となっており小説類の利用が増えていることが分かる。図書館利用の目的は、調べものをするための図書の利用は少なく、自由読書のための図書の利用が多いことの現れである。

クラス別貸出数から、クラス間の利用の格差が著しくなっていることが分かる。また、学年別貸出数を見ると学年が進むにつれ貸出が減少している。

6. まとめ

1999年度から2004年度まで減少の一途をたどっていた貸出数の減少が下げ止まり、2005年度より増加に転じている。「図書館離れ」という危機感から、広報誌『らい★ぶらり』を全生徒に配布、新着図書館案内『あたらしい本』を月に1～2回発行、教員への広報誌『図書館ニュース（中等部版）』を学期に一度配布するなど、広報活動への取り組みが利用増の数字に表れていると考えている。

2007年度も引き続き広報活動に力を注ぐと同時に、次の2点について努力していきたいと考えている。

<授業との連携>

授業を通して図書館を活用し、資料の利用方法や情報検索などの指導を実施して、情報活用能力の育成に努める。

<読書の楽しさ>

一人でも多くの生徒に読書の楽しさを味わってもらえるように、授業の中や図書館の広報で様々な本を紹介し興味付けしていくよう努力する。

今後も先生と図書館員が協力し、生徒に対し様々な働きかけを実施して、読書活動や図書館利用が活発になるよう努めていかなければならない。是非とも先生方には授業での図書館活用をお願いしたいものである。

VII. 小学校活動報告・統計

1. 活動報告

1) オリエンテーション

2006年度は1年3クラスと2年1クラスを除き、各クラスでオリエンテーションを最初の「図書の日」に実施した。繰り返し貸出・返却・利用マナーなどを共通して説明し、2年生ではリクエストの仕方を、4年生から貸出カードが個人管理になるので、その説明を加えている。

2学期末には3年生に図書館での本の並び方や本に貼付してあるラベルの説明を行った。また4年生にコンピュータの時間の一部をいただき、小学校の多目的室のコンピュータを使って検索の仕方を説明した。これらのオリエンテーションを行うことで、少しでも上手に図書館を使えるようになってほしい。

2) 図書館サービス

①レファレンス、授業との連携、読み聞かせ・本の紹介など

前述したオリエンテーション以外に、図書館が担任の依頼を受け実施した読み聞かせや紹介などは下記のものがある。

- ・ 3年3クラスで「お話で世界一周」と題して、世界地図を見せながらいろんな国の創作話や民話の紹介を行った。
- ・ 4年3クラスで国語に関連して「工藤直子と草野心平」に関するブックトークを行った。
- ・ 3Aで国語単元「ミラクル・ミルク」で疑問に思ったことのレファレンスがあり、それに答える形での本の紹介を行った。子どもたちの疑問は多岐に渡り、回答が困難なものもあった。
- ・ 2B・4A・4B・6Bで「夏休みにおすすめの本」を紹介した。

日常的に先生方から単元に関するもの、個人的な調べ物など資料集めの依頼は定着しており、あげるときりがないので割愛する。体験学習の広島（5年）や修学旅行の関東（6年）の資料集めは毎年恒例になっている。集めた資料がどのように使われ、役に立ったかどうかの追跡調査ができていないので、資料の充実を図るためにも事後調査もしていきたい。

②リクエストの利用状況 件数2,211件

- ・ 総件数の内、約130件は年度内に未処理で2007年度に持ち越し、2件のリクエストは公共図書館の団体貸出で対応した。
- ・ 所蔵していない本のリクエストについては、内容を検討してできるだけ購入し、場合によっては公共図書館の団体貸出を利用するなどして提供するよう努めた。
- ・ 連絡をしても取りに来ない児童がいるので、何のためのリクエストかを周知徹底したい。

2. 図書予算決算報告

科目名	冊数	金額
小学校図書	749	999,976
同和教育	0	0
合計	749	999,976

一人当たり購入数／ 1.38冊 金額／ 1,838円

3. 蔵書冊数

14,951冊（2007年3月31日現在）

4. 年間受入資料数

分類番号	一般図書	参考図書	絵本	紙芝居	楽譜	マンガ	カセット	C D	ビデオ	DVD	CD-ROM	合計
総記 000	5 11,624	3 15,593	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	8 27,217
哲学 100	16 23,584	0 0	3 3,402	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	19 26,986
歴史 200	27 56,281	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	27 56,281
社会科学 300	69 153,483	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 9,450	0 0	70 162,933
自然科学 400	84 137,636	2 5,292	5 5,859	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	91 148,787
技術 500	31 66,560	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	31 66,560
産業 600	16 26,426	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	16 26,426
芸術 700	45 66,302	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 6,615	0 0	0 0	46 72,917
言語 800	17 21,491	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	17 21,491
文学 900	310 284,866	0 0	219 195,685	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	529 480,551
合計	620 848,253	5 20,885	227 204,946	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 6,615	1 9,450	0 0	854 1,090,149

（上段：冊数、下段：金額）寄贈図書を含む

年間受入資料冊数は、854冊1,090,149円で一冊平均1,277円である。

受入の約62%が文学で、その内訳は物語が35%で絵本が25%となっている。読書感想文や読書感想画、本の帯コンクールなどに応募する取り組みなどがなされ、どうしても文学の割合が多くなっている。

年1回先生方とともに選書へ出向くものの、普段は先生方からの選書も物語が多く、教科に関連したものはほとんど出されない。今ある資料に満足せずに、蔵書の充実を図っていきたい。

5. 貸出冊数

貸出冊数及び一人当たりの貸出数（過去5年間）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
対象人数（人）	593	565	547	542	544
貸出冊数（冊）	36,304	35,970	36,134	35,557	36,443
1人当たり貸出冊数（冊）	61.22	63.66	66.06	65.60	66.99

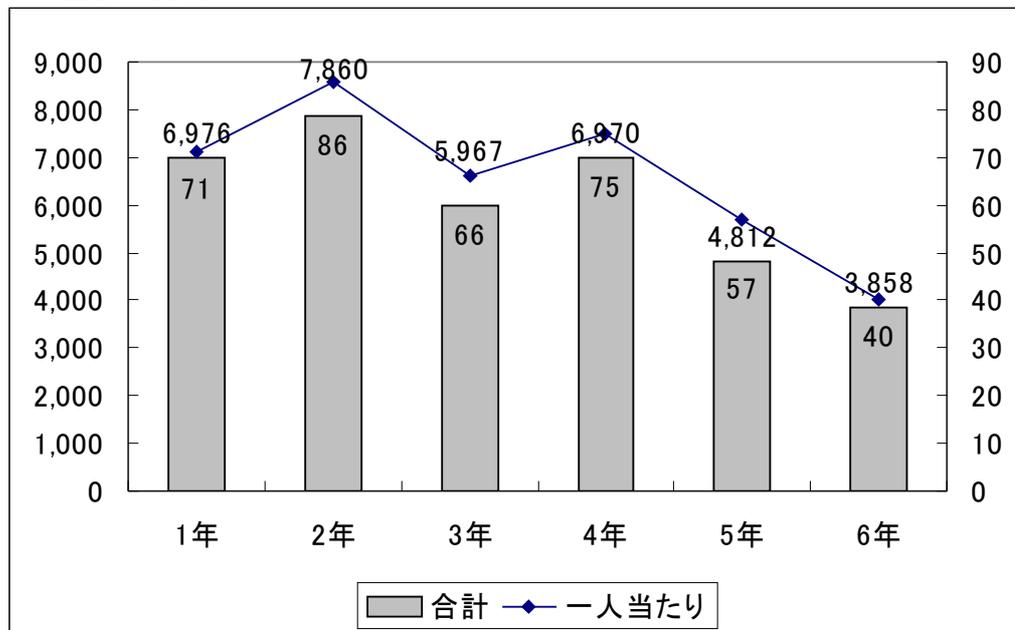
分類別貸出冊数

総記 (000)	哲学(100)	歴史(200)	社会科学(300)	自然科学(400)
55	516	1,443	782	2,152
技術(500)	産業(600)	芸術(700)	言語(800)	文学(900)
1,345	977	1,406	442	27,325

学年別貸出冊数

	貸出冊数	児童数	一人当たり
1年	6,976	98	71
2年	7,860	91	86
3年	5,967	81	66
4年	6,970	93	75
5年	4,812	85	57
6年	3,858	96	40

学年別貸出冊数



例年1年生の貸出開始は5月からで他学年より1ヶ月遅く、慣れるまで1人1冊という制限があるために50冊平均だったが、それを大きく上回り一人当たり71冊と非常に多くなっている。逆に3年生は例年80冊平均で小学校の中で一番の貸出があったのに、2005年度は66冊に減少している。行事で授業がつぶれていることもなく、減少した原因がわからない。4年生以上には大きな変化はない。

貸出資料は相変わらず『ミッケ』や『こまったさん』『わかったさん』、『かいけつゾロリ』などのシリーズものは低学年に人気があり、よく借りられた。高学年になると子ども向けの推理小説や外国文学作品が多く借りられた。特に6年生では一般書の貸出希望も多かったが、学習上必要な図書のみ貸出可能、例えばテレビドラマのノベライズ本や芸能関係の図書などは貸出しない、という図書館利用指導の申し合わせにより、貸出希望者には担任の確認・許可を得てから貸出していた。

教科関連資料の貸出は、児童個人が借りるよりもクラス貸出や担任が借りることが多いため、児童の貸出数にはそれほど反映されていない。

6. まとめ

そもそも授業としての“図書の時間”をどう捉えたらよいのだろうか。ある研修会の中では、「“図書の時間”とは図書資料の利用に関して学習する時間と読書意欲を喚起する時間という2つの面を併せ持った授業時間であることと捉えている。また図書館そのものを学ぶ場でもあり、図書館の機能やサービスを積み重ねて体験し体得していく時間」と捉え、「担任との打ち合わせで充実を図り、何を児童に伝えたいかをしっかりもっておくこと、学校の動きや児童をよく観察し、臨機応変に対応できるように心がける必要がある」とのお話があった。

全児童が必ず図書館に来る貴重な時間である。“図書の時間”は小学校独特なものであるが、小学校だけで収束してほしくはない。この時間をただの自由読書の時間にせず、小学校から中学校へ、中学校から高等学校へ・・・と読書はもちろんのこと、疑問をもったときや課題が出されたときに上手に図書館が使える利用者を育てることを意識した“図書の時間”というものを先生方と一緒に考え実践していけたら、本学の特徴でもある総合図書館としても発展できるのではないだろうか。

先生方が図書館を利用する姿は児童たちのお手本になるはずである。ぜひ先生方には授業ではもちろん教材研究などでも図書館の利用を、そして不足分はどんどん図書館への要望として出していただき、ともに児童・先生方にとって使いやすい図書館を作っていきたい。

VIII. 幼稚園活動報告・統計

1. 活動報告

幼稚園の活動は、幼稚園2階にある図書室で、保護者の協力のもとに各クラスから選出された図書委員6名×10クラスの計60名により、園児を対象に貸出が行われている。

1) 図書委員会（保護者委員）

- ・ 2006年6月14日 図書委員紹介・活動内容説明・役割分担
- ・ 2007年2月27日 反省会

2) 貸出・返却

開室日時：毎週木曜日 12:00～14:00（年間15回最終日は返却のみ）

貸出冊数：園児 3冊まで

貸出期間：1週間

貸出等の手続きは図書委員12名・役員3名グループの輪番制によって行われている。

3) 図書部会（図書係先生）

- ・ 2006年5月26日 第1回図書館教育委員会

4) 発行物

- ・ 学院図書館案内（1学期始業時・入園時）
毎年年度の初めに、保護者の方々へ学院図書館の利用案内を配布している。
- ・ 『としょかんつうしん』（年4回）
保護者を対象に、図書室における園児貸出の様子や、図書館資料の案内、お知らせやお願いなどを中心とした内容で発行している。

2. 図書予算決算報告

科目名	冊数	金額
幼稚園図書	119	149,465
図書館	143	150,504
同和教育	0	0
合計	262	299,969

一人当たり購入数／ 0.81冊 金額／ 926円

3. 蔵書冊数

5,191冊（2007年3月31日現在）

4. 年間受入資料数

分類番号	一般図書	参考図書	絵本	紙芝居	楽譜	マンガ	カセット	C D	ビデオ	DVD	CD-ROM	合計
総記	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
哲学	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4
100	1,650	0	3,024	0	0	0	0	0	0	0	0	4,674
歴史	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
200	1,512	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,512
社会科学	16	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
300	23,511	4,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27,511
自然科学	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
400	22,266	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,266
技術	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
500	6,818	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,818
産業	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
600	5,216	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,216
芸術	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
700	15,266	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15,266
言語	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
800	1,701	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,701
文学	31	0	240	0	0	0	0	0	0	0	0	271
900	26,120	0	266,701	0	0	0	0	0	0	0	0	292,821
合計	86	1	243	0	0	0	0	0	0	0	0	330
	104,060	4,000	269,725	0	0	0	0	0	0	0	0	377,785

(上段：冊数、下段：金額) 寄贈図書を含む

年間受入資料数は、330冊 377,785円で一冊平均1,145円である。

受入資料数の約74%が絵本やよみものであり、小学校低学年レベルの絵本以外の本も選書を行った。2006年度も夏に一度、図書係の先生と図書の取次店に行って直接選書を行った。

また、消耗図書として紙芝居や、園児たちがいつでも身近に読める本として、各クラスに絵本やしかけ図鑑を購入した。

5. 貸出冊数

貸出冊数及び一人当たりの貸出数 (過去5年間)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
対象人数 (人)	308	309	328	344	324
貸出冊数 (冊)	5,181	7,246	8,623	8,433	8,839
1人当たり貸出冊数 (冊)	16.82	23.45	26.29	24.51	27.28

分野別貸出数 (ラベルの色)

児童文学(赤)	宗教(黄)	学習百科(緑)
6,661	126	2,052

クラス別貸出冊数

園児数	32	33	32	33	32	33	34	32	30	33	324
クラス	ばら	ゆり	のばら	ひまわり	ふじ	ちゅうりつぷ	たんぽぽ	さくら	すみれ	きく	合計
赤	661	699	588	546	634	620	764	737	623	789	6,661
黄	8	7	16	23	13	5	3	24	13	14	126
緑	194	205	269	202	149	326	163	171	186	187	2,052
冊数	863	911	873	771	796	951	930	932	822	990	8,839
人数	355	382	358	317	379	381	400	383	345	360	3,660

2006年度は過去最高の貸出冊数であり、園児一人当たり年間27冊もの資料を借りている。原因として2006年度は2005年度より開室日（貸出日）数が1日多かった為だと思われるが、貸出利用者の総のべ人数は3,660人であり、これは1回の開室につき平均約261名の利用となり、2005年度より1日平均10人減少している事になる。

また、2006年度に好評だった夏休み期間中と冬休み期間中にも貸出を行い、蔵書点検を6月の貸出前に行った。

6. まとめ

2005年度の夏休み明けより実施している逆ブラウン方式貸出（個人用ブックポケットをカウンターで管理する）によって貸出作業がスムーズになった。2006年度は図書役員の総入れ替えによって運営方法が手探りだったため、反省会では図書係りの方々からマニュアルの作成の要望が多くあがった。

貸出面において、1日の利用率が減少している事には、開室時間も要因の一つだと思われる。貸出時間が昼食後から降園までの間に限られているので、午後から園での活動がある場合には園児が図書室に行きにくい現状も見受けられた。

設備面では、「人気の本コーナー」の本が増えたために、限られたスペースでの収容・配架に限界がみられ、今後の検討課題である。

督促面では、貸出時に園児個人に対してその都度声掛けを行っているが、冬休み明けの返却日に貸出の約半数の園児に返却忘れがみられたことから、返却日の周知に気を配らねばならない。

蔵書管理面において、2006年度は夏休み貸出に対応するべく、6月の年度貸出開始以前に蔵書点検を行った。今後も毎年貸出前に行っていく予定である。

学院図書館の保護者利用も年々定着しつつあり、幼稚園保護者だけで2006年度新規登録者43名、合計108名の保護者利用登録がなされている。今後も『としょかんつうしん』などの広報で利用案内を続けていきたい。

Ⅸ. 図書館利用アンケート結果

図書館サービスが利用者にとどのように評価されているか、図書館に対する要望は何かを知るために、12月から3月にかけて中学生・高校生・短大生を対象に図書館利用アンケート調査を行った。2004年度より毎年行っている調査である。

調査項目は、読書量や図書館の利用目的、予約や購入希望の認知度、図書館への要望など多岐にわたる。アンケート結果は今後の図書館活動を見直すための参考資料とする。

1. 調査対象

	生徒数 (人)	回答数 (人)	回答率 (%)
短大 (初教)	264	231	87.5
短大 (人環)	95	75	78.9
高校	724	656	90.6
中学	294	275	93.5

2. 1ヶ月の読書量 (漫画・雑誌を除く)

	a. 0冊	b. 5冊まで	c. 10冊まで	d. 20冊まで	e. 21冊以上	無記入
初教	54.1	43.3	2.2	0.0	0.4	0.0
人環	60.0	37.3	0.0	1.3	1.3	0.0
高校	49.7	42.8	4.0	1.1	1.8	0.6
中学	29.8	58.2	8.4	1.8	1.1	0.7

(単位：%)

1ヶ月に1冊も本を読まない短大初等教育学科 (以下「初教」) の学生は54.1%となっており、昨年度よりも2%増加している。短大人間環境学科 (以下「人環」) では60.0%と2005年度よりもまったく読まない学生が15%増加している。これはレポート課題が少なく、資料を必要としないためではないだろうか。高校生は2005年度56.8%だった未読者が49.7%に減った。「5冊まで」との回答も2005年度の35.1%から42.8%まで増加している。中学生は「5冊まで」「10冊まで」読むと回答している生徒が合わせて70%近くもあった。図書館のお知らせや新着案内を掲載した図書館だより『らい★ぶらり』を中高生全員配布したことによる嬉しい結果だと思われる。

3. 図書館利用率

1) 公共図書館の利用

	a. 毎日	b. 1週間に3回以上	c. 1週間に1～2回	d. 月に2～3回	e. めったに行かない	f. 全然行かない	無記入
初教	0.0	0.0	0.4	13.9	54.5	29.9	1.3
人環	0.0	0.0	0.0	2.7	30.7	66.7	0.0
高校	0.5	2.4	0.9	3.8	38.9	53.4	0.2
中学	0.0	0.7	1.8	5.8	37.1	53.8	0.7

(単位：%)

回答者の9割が公共図書館には「めったに行かない」「全然行かない」としているが、初教の学生の13.9%が「月2～3回」利用すると回答している。これは課題が出された時に大阪信愛女学院図書館の資料は早く借りられてしまうことや、開館時間が関係していると思われる。

2) 大阪信愛女学院図書館の利用

	a. 毎日	b. 1週間に3回以上	c. 1週間に1～2回	d. 月に2～3回	e. めったに行かない	f. 全然行かない	無記入
初教	0.0	0.9	5.6	35.1	50.6	7.4	0.4
人環	0.0	1.3	0.0	9.3	24.0	65.3	0.0
高校	0.8	4.7	11.4	16.9	42.1	18.9	0.6
中学	5.8	8.4	10.5	29.8	32.0	12.7	0.7

(単位：%)

人環の学生は残念ながら「めったに行かない」「全然行かない」を合わせると90%になる。先にも記述したとおりレポート課題が少なくなったことと、やはり距離のためであろう。

その他に関しては、全体に「月に2～3回」以上との回答が増加していた。特に初教の学生については35%が「月に2～3回」と回答している。これは2005年度よりも10%増、反対に「めったに行かない」「全然行かない」との回答が10%減となっている。

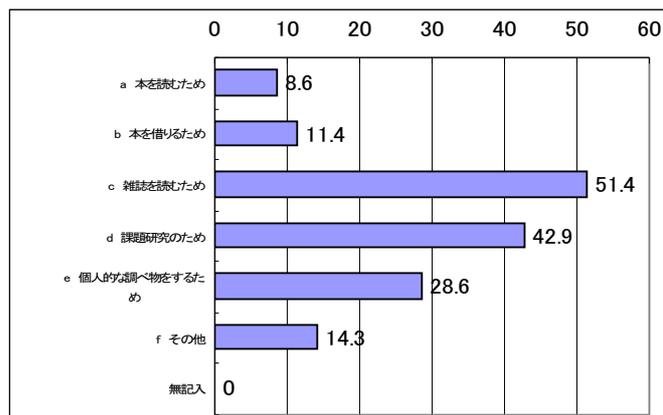
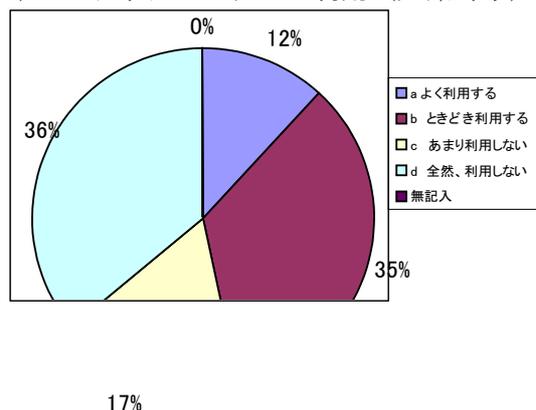
中高生についても貸出数が微増していることから、中高生全員に配布した図書館だよりの効果ではないだろうか。

「めったに行かない」「全然行かない」理由を選択回答してもらった結果は下記のとおりである。意外に「普段は図書館へ行かないが、定期試験時には利用することもある」という中学生・高校生の回答が少なく、「クラブや稽古事、塾などで図書館へ行く時間がない」が最も多かった。その他についてはあまり変化は見られなかった。

	初教	人環	高校	中学
読みたい本がない	22.4	13.4	12.5	26.8
読みたい雑誌がない	11.9	6.0	3.0	10.6
聴きたいCDがない	9.7	4.5	8.3	13.8
観たいビデオやDVDがない	5.2	1.5	5.8	13.0
本の探し方がわからない	5.2	1.5	2.8	1.6
図書館の先生の対応が悪い	1.5	1.5	0.8	0.8
図書館の雰囲気が嫌	6.0	0.0	2.0	4.1
貸出や返却などの手続きが面倒	18.7	10.4	14.0	22.0
本が嫌い	23.1	6.0	10.8	12.2
なんとなく	35.8	25.4	40.3	43.1
クラブや稽古事、塾などで図書館へ行く時間がない	-	-	39.0	43.9
普段は図書館へ行かないが、定期試験時には利用することもある	40.3	4.5	28.8	14.6
メディアコーナーで十分	-	3.0	-	-
鶴見学舎から遠い	-	65.7	-	-
その他	5.2	3.0	5.5	4.9
無記入	0.7	6.0	0.5	1.6

(単位：%)

3) メディアコーナーの利用 (人環対象)



鶴見学舎にあるメディアコーナーの利用を尋ねた結果である。2005年度は「課題研究のため」「個人的な調べ物をするため」の利用が多かったことに対し、2006年度は「雑誌を読むため」が最も多く、課題研究や調べ物での利用は20%も減っていた。

4. 利用目的 (大阪信愛女学院図書館を「月2～3回」以上利用すると回答した学生・生徒対象)

	初教	人環	高校	中学
図書館の本を読むため	28.1	37.5	45.9	32.0
図書館の本を借りるため	72.9	62.5	78.4	66.0
CDを借りるため	21.9	50.0	42.8	39.3
ビデオ・DVDを観るため	16.7	0.0	28.4	22.0
新聞・雑誌を読むため	10.4	12.5	25.7	27.3
課題研究のため	69.8	25.0	-	-
勉強のため	-	-	49.1	25.3
個人的な調べ物をするため	26.0	12.5	22.5	19.3
宿題のため	-	-	19.4	6.7
友達との待ち合わせ	1.0	0.0	12.2	7.3
インターネットを利用するため	2.1	12.5	10.4	27.3
その他	2.1	0.0	2.3	3.3
無記入	0.0	0.0	0.9	0.0

(単位：%)

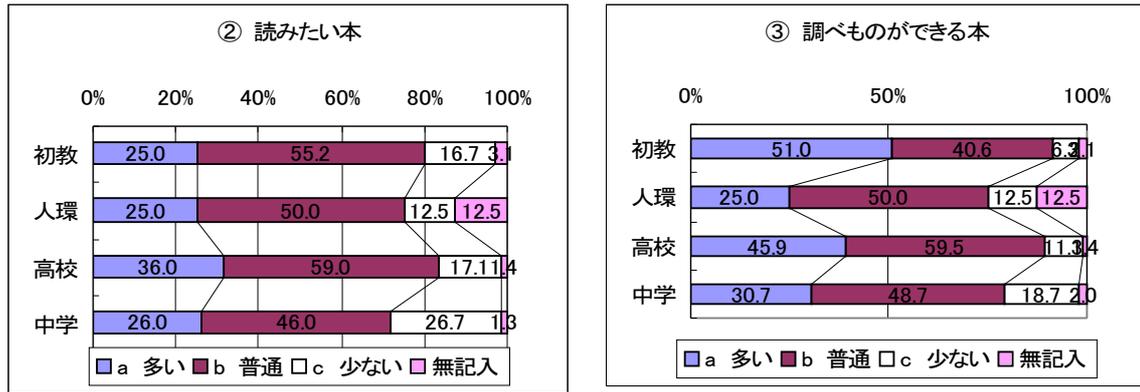
初教の学生では「本を借りるため」「課題研究のため」の利用目的が最も多い。上位貸出の内容も保育書関連がほとんどで、保育園・幼稚園実習での資料が必要とされているようである。学舎が離れていて不便ながらも、一部の人環の学生は「本を借りるため」(62.5%)に利用しているようである。また鶴見学舎のメディアコーナーにはCDがないこともあり、他校よりも「CDを借りるため」の回答が多かった。

高校生では最も多くの回答があったのが「本を借りるため」(78.4%)で借りることを目的にしている。次に回答が多いように「勉強のため」(49.1%)の場所としても利用されているようである。いずれも2005年度調査よりも10%増だった。

中学生では「本を借りるため」(66.0%)が最も多かったが、突出しているわけではなく「CDを借りるため」「インターネットを利用するため」と思い思いの利用をしているようである。

5. 利用で感じていること

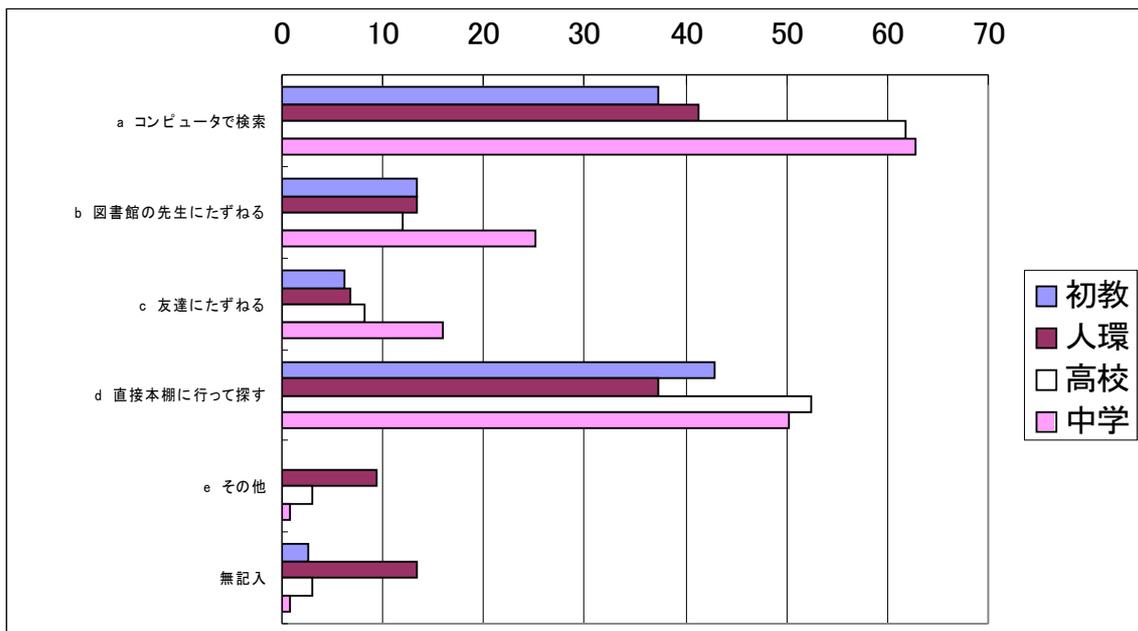
(大阪信愛女学院図書館を「月2～3回」以上利用すると回答した学生・生徒対象)



本数は「多い」もしくは「普通」という回答で8割以上を占めていた。しかし読みたい本と調べものができる本に分けると、結果は上記のグラフである。読みたい本については「多い」感じがないように見受けられる。特に初教の学生は顕著である。購入希望制度の周知を図り、購入した資料の紹介をするなど広報を行っていききたい。

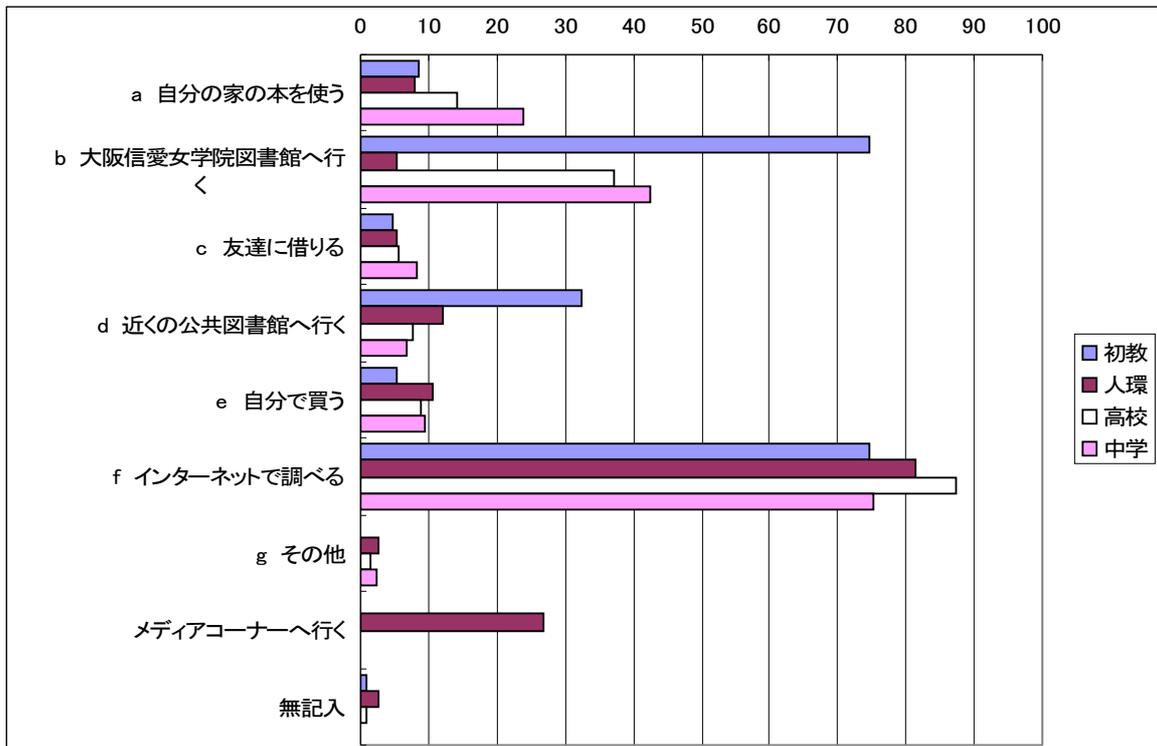
6. 資料の入手方法

1) 図書館で読みたい本を探すとき



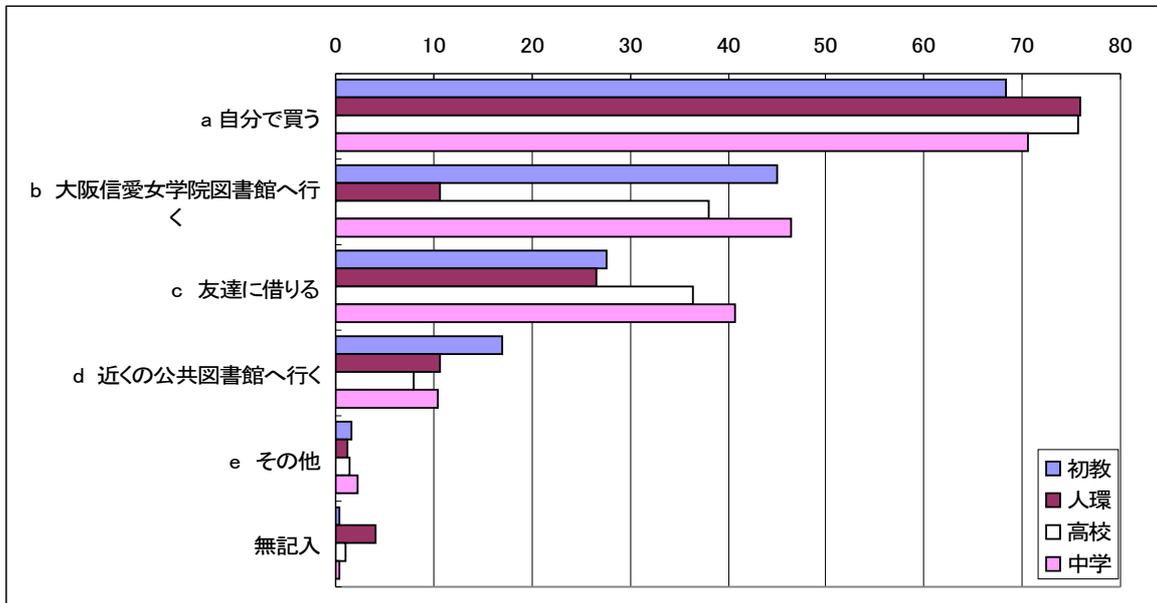
年齢が下がるにつれ「コンピュータで検索する」という回答が増えており、短大生は目的がはっきりしているからか、「直接本棚に行って探す」という割合が多い。コンピュータでの検索の場合、慣れていないと目的のものが探せずに「図書館には本がない」と探しきれずに終わることもあるし、直接本棚に行ってもタイトルに探している件名がないとコンピュータ検索同様「図書館には本がない」と諦めていることがある。まだ小数ではあるが中学生は「図書館の先生にたずねる」こともし、目当ての資料を探している。中学生のように気軽に司書に資料相談できる雰囲気を作っていききたい。

2) 調べ物をしなければならないとき



調べ物の場合、圧倒的に「インターネットで調べる」という回答が多い。各校とも70%を越え、特に高校では90%近くにもなる。ただ、初教の学生は大阪信愛女学院図書館、公共図書館も多く利用しているようである。

3) 読みたい本があったとき



短大生は半数以上、中高生でも購入希望ができることを知っている。にも関わらず、読みたい本があったときは、「自分で買う」との回答が多かった。「読みたい本はなんでも図書館にある」と言われるように積極的に購入希望の周知や図書館にどんな資料が入ってきたのかを知らせていくことにより、図書館の利用促進を図りたい。

7. 「予約」「購入希望」制度の認知

予約		a. 知っている	b. 知らない	無記入	予約 の 利用		a. ある	b. ない	無記入
	初教		70.1	28.6		1.3	初教		12.3
人環		57.3	37.3	5.3	人環		18.6	81.4	0.0
高校		93.9	5.6	0.5	高校		34.7	65.1	0.2
中学		94.2	4.4	1.5	中学		59.8	40.2	0.0
購入 希望		a. 知っている	b. 知らない	無記入	購入 希望 の 利用		a. ある	b. ない	無記入
	初教		56.7	41.6		1.7	初教		6.1
人環		50.7	44.0	5.3	人環		15.8	78.9	5.3
高校		92.7	5.5	1.8	高校		23.5	75.5	1.0
中学		86.2	11.6	2.2	中学		29.5	69.6	0.8

(いずれも単位：%)

人環の学生は図書館に来る機会も少なく「予約」や「購入希望」制度の認知度は半数程度だった。初教の学生の認知度は「予約」が70.1%、「購入希望」が56.7%で2005年度よりも認知されていた。利用の多くが実習や課題ですぐに必要なものが多く、予約や購入希望で本が手元に届くまで待ってられないのか、学生はこの制度をあまり利用していない。

高校生の認知度は「予約」が93.9%、「購入希望」が92.7%であった。中学生でも「予約」が94.2%、「購入希望」が86.2%と認知度は高かった。高校生・中学生ともに「予約」については利用もされているが「購入希望」については、「それほど必要としていない」との回答が最も多かった。

8. 広報

広報に関して主に図書館で配布している新着図書案内『あたらしい本』、中高生対象に全員配布している図書館だより『らい★ぶらり』、図書館前掲示板、学生対象に短大校舎掲示板をそれぞれの程度見ているかを尋ねた。これは2006年度に新たに追加した設問である。

1) 新着案内『あたらしい本』

	a. いつも見ている	b. たまに見る	c. 見たことがない	無記入
初教	3.0	51.9	43.7	1.7
人環	0.0	29.3	66.7	4.0
高校	6.1	48.0	44.0	1.5
中学	10.2	60.4	28.0	1.5

(単位は%)

新着案内は図書館玄関やカウンター周りに置いてあり、自由に持ち帰ることができる。2006年10月から短大城東学舎の掲示板や鶴見のメディアコーナーでも自由に持ち帰れるようにした。これに関しては全員配布していないにも関わらず約半数は「たまに見る」と回答しており、なんとなく認知されているようである。

2) 図書館だより『らい★ぶらり』 (中高生対象)

	a. いつも見ている	b. たまに見る	c. 見たことがない	無記入
高校	8.4	70.0	21.0	1.2
中学	10.9	65.5	22.2	1.5

(単位は%)

2006年10月より図書館だより『らい★ぶらり』を中高生全員に配布している。内容は図書館から

のお知らせや新着案内などで、これを配ることにより若干貸出や予約も増え、プリントを持って図書館へ来る生徒も増えたように見受けられる。

3) 図書館前掲示板

	a. いつも見ている	b. たまに見る	c. 見たことがない	無記入
初教	1.3	44.2	52.4	2.2
人環	0.0	24.0	72.0	4.0
高校	2.4	52.0	44.0	1.5
中学	7.6	62.9	28.0	1.5

(単位は%)

図書館前の掲示板は新着資料の案内や各種お知らせ、ポスターなどを掲示している。

4) 短大校舎掲示板 (短大生対象)

	a. いつも見ている	b. たまに見る	c. 見たことがない	無記入
初教	16.9	53.7	27.7	1.7
人環	4.0	34.7	57.3	4.0

(単位は%)

短大の掲示板には図書館からのお知らせ、督促や予約での呼び出しなどを掲示している。短大の掲示板は必ず見て確認するように言われているはずだが、初教の学生は30%弱、人環の学生は60%弱も「見たことがない」と回答している。

9. 雑誌 (上位5誌)

1) よく読む雑誌

	初教	人環	高校	中学
1	non・no	non・no	non・no	SEVENTEEN
2	ViVi	Can Cam	ViVi	Myojo
3	Can Cam	KERA BLENDA	SEVENTEEN	Popteen ポポロ
4	PS 関西 Spy Girl Select	ViVi Kansai Walker Ray	Popteen	Hana・chu→
5	JJ	Cure Shoxx	Can Cam	non・no

ほとんどがファッション・芸能に関する雑誌であった。

2) 図書館に入れてほしい雑誌

	初教	人環	高校	中学
1	ViVi	BLENDA	ViVi	Hana・chu→
2	JJ	Can Cam ViVi	PINKY	duet
3	PS	Ray	Soup / KERA	ポポロ

			duet	
4	egg	--	Wink up	Popteen egg
5	関西 Spy Girl Select Can Cam SEDA Ray	--	egg POTETO ポポロ rock' n on JAPAN	Wink up

図書館に入れてほしい雑誌のほとんどがファッション・芸能に関する雑誌であった。

10. 好きな作家（上位5人）

	初教	人環	高校	中学
1	さくらももこ	山田悠介	山田悠介	Yoshi 赤川次郎 山田悠介
2	東野圭吾	江戸川乱歩 太宰治 江國香織 さくらももこ	乙一	Chaco
3	灰谷健次郎 リリー・フランキー 乙一 村山由佳 市川拓司	--	Yoshi 宮部みゆき	はやみねかおる
4	--	--	夏目漱石 東野圭吾 森絵都	J.K. ローリング さくらももこ
5	--	--	あさのあつこ よしもとばなな	石田衣良 東野圭吾 ロアルド・ダール

短大生の回答が非常に少なく、複数回答があったものだけをあげた。

11. 最近読んで面白かった作品（上位5作品）

	初教	人環	高校	中学
1	東京タワー	ハリー・ポッター	恋空	恋空
2	ハリー・ポッター	--	東京タワー	Itと呼ばれた子 天使がくれたもの
3	--	--	手紙	ハリー・ポッター

4	--	--	バッテリー	キノの旅
5	--	--	こころ	親指さがし 少年陰陽師

短大生の回答が非常に少なく、複数回答があったものだけをあげた。

12. 図書館への意見や要望

自由記述のため記入は少なく特に変わった意見や要望はなかった。中でもやはり多かったのはDVDやCD、雑誌などの視聴覚資料に関するもので、「いま流行しているものを置いてほしい」「種類（ジャンル）を多くしてほしい」といった意見だった。高校生や短大生には開館時間に関するものもあった。中には「6年間たくさん利用させていただきました。とても役に立ちました。これからも信愛の顔でいてください」（高3）の励ましの声もあった。

学生・生徒から見た図書館の姿はどのようなものなのか。それを知りたくて2004年度より図書館利用アンケート調査を実施し3年が経過した。3年間を見比べてもそれほど結果に大きな違いはないが、より視覚的なもの、DVDやCDといった視聴覚資料を流行のものにという意見に代表されるように、いかに資料の新鮮さが大切なかがわかる。図書館を利用しているのは一部の学生・生徒になっているのではないだろうか。そんな思いから新たな試みとして中高生に図書館だよりを全員配布した。その結果は顕著になっていないが、それでも以前よりも利用者は確実に増えていると思われる。これからも高校3年生の意見にもあるように「信愛の顔」になるべく、活動していきたい。

おわりに

大学図書館と学校図書館の機能を併せ持つ大阪信愛女学院図書館は児童書から専門書までの幅広い資料を揃え、教育活動に寄与しています。年度毎に活動目標を掲げ、より良い支援ができるよう取り組んでいます。

教育活動において資料の充実は重要なことです。図書館においては授業内容や利用者のニーズを把握し、求める資料の提供に努めています。しかし、授業関連図書の充実のためにはなによりも先生方による選書が必要です。購入申請は短期大学・高校においては増加傾向にありますが、中学校においては低迷しています。先生方に授業関連図書や教養を高める図書の積極的な選書をお願いしたいと思います。

貸出状況を見ると中学校において貸出が伸びています。これは放課後の図書館利用の増加によるものと思われます。高校においては減少の状態が続き打開策が必要です。短大の初等教育学科は実践的な図書の貸出が増加していますが、人間環境学科は減少傾向にあり学科関連図書の貸出が望まれます。小学校は隔週毎に図書の時間が設けられ、貸出を行っているため安定しています。幼稚園は過去最高の貸出冊数を記録し、園児たちの本への関心の程がうかがえます。

貸出においては各校とも授業に関する図書の貸出は少なく、ほとんどが自由読書による貸出です。授業における図書の紹介などにより授業関連図書の貸出が伸びることを願っています。図書館におきましても広報活動などにより貸出の促進を図っていききたいと思います。

授業における図書館利用は少なく各校一部の教科で行われている程度です。小学校において調べ学習のための資料収集依頼が定着したことは喜ばしいことです。学生・生徒への課題提出や中学校・高校の「総合的な学習」に調べ学習を取り入れていただき、「自ら学び考える力」の育成を望みたいと思います。

保護者・卒業生及び学外者の方に学院図書館を開放しています。保護者の利用が増加し、中でも園児と保護者の親子連れを多く目にします。親子読書の場、生涯学習の場として多くの方々に図書館を利用していただきたいと思います。

図書館は毎日の学習を支援し、必要な情報を提供する「学習・情報センター」であり、また読書を通して人間形成を図る「読書センター」でもあります。

先生方との連携のもと、図書館機能をより充実させ、児童・生徒・学生に利用される図書館をめざす所存です。